

【試合結果】

女子 決勝トーナメント		決勝																
日時	平成29年12月28日 (木)	11:40 ~																
会場	湿原の風アリーナ釧路A																	
結果	○ 帯広翔陽中 帯広	<table border="0"> <tr><td>19</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>12</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>19</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>18</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	19	—	16	12	—	11	19	—	9	18	—	12		OT		● 士別南中 名寄
	19	—	16															
12	—	11																
19	—	9																
18	—	12																
	OT																	
審判	主審 工藤 由佳	副審	水嶋 星陽															

第32回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

帯広翔陽中		帯広						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	石野 さくら	×	6	1	1	1	4	3
5	嶋 望早	×	8	0	4	0	3	2
6	須田 香音	DNP	0					
7	後藤 あかり	×	27	0	13	1	6	1
8	佐藤 千広	DNP	0					
9	丸山 ほのか	DNP	0					
10	本間 菜々実	DNP	0					
11	新保 瑠空	×	2	0	1	0	2	2
12	青田 礼衣	DNP	0					
13	山崎 莉子	DNP	0					
14	市橋 令菜	DNP	0					
15	太田 彩巴	DNP	0					
16	金尾 美青	DNP	0					
17	橋本 彩永	/	9	0	4	1	1	0
18	野村 美桜	×	16	0	8	0	2	1
HC	川岸 仁							
合計			68	1	31	3	18	9

士別南中		名寄						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	田口 夢花	×	9	0	4	1	6	2
5	伊藤 姫厘	×	15	2	4	1	2	1
6	伊藤 遥奈	×	5	0	2	1	1	0
7	粥川 実聖	×	2	0	1	0	0	0
8	菅原 ほのか	×	10	0	5	0	1	0
9	高橋 なつ	DNP	0					
10	庄司 聖奈	×	7	1	2	0	0	2
11	齋藤 心奈	DNP	0					
12	松原 愛	DNP	0					
13		DNP	0					
14	0	DNP	0					
15		DNP	0					
16	0	DNP	0					
17		DNP	0					
18	0	DNP	0					
HC	三上 貴也							
合計			48	3	18	3	10	5

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

接戦を勝ち抜き、高さのある帯広市立翔陽中学校と試合を重ねながら成長を見せた士別市立士別南中学校の決勝戦。第1ピリオド、翔陽中④⑤⑦⑩⑪⑬、士別南中④⑤⑥⑦⑧のスターティングメンバー。開始から、士別南中④のリバウンドを警戒し、早い展開に持って行こうとする翔陽中が、得点を重ねていくのに対し、士別南中も何とかオープンを作りシュートを決めていく展開、翔陽中が⑩⑤の合わせのプレーなどにより、19対16、3点リードで第1ピリオドを終える。第2ピリオド開始早々、士別南中連続リバウンドから⑩の3Pシュートで同点に追いつき、リズムをつかもうとするが、ターンオーバーが続きリズムに乗りきれない。31対27翔陽中リードで前半終了。第3ピリオド中盤、翔陽中が、早い展開に持ち込み、リズムをつかむ、たまたず士別南中タイムアウト。直後、翔陽中⑦の連続得点、⑬のリバウンドショットで引き離しにかかる。終了間際、士別南中④が決め、何とかつなごうとするが、翔陽中⑪に走られ、50対36翔陽中リードで終了。第4ピリオド開始直後、士別南中⑤の連続得点により、リズムを掴みかけるが、得点が続きミスも重なり引き離されていく、翔陽中は、⑦⑪のドライブからのジャンプシュートが面白いように決まり、⑬のリバウンドでもセカンドチャンスを作る。68対48、20点差をつけて翔陽中が、初優勝を飾った。士別南中のひたむきなプレー、ノーマークを確実に決めるシュート力。翔陽中の高さを活かしつつ、大きな選手が縦横無尽にコート駆け回り、得点を重ねていくプレーが、随所に見られ、両チームの決戦大会での活躍を期待できる引き締まった決勝戦となった。